
研究所だより

第334号
2013年10月10日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3016

< 教研推進委員会 >

4日（金）に第4回教研推進委員会が開催されました。協議内容を報告します。

1, 一日教研の反省

【清水中】

- ・運営等特に意見はありませんでした。
- ・講師については好評でした。

【西部地区】

講演について

- ・内容的にわかりやすかった。
- ・隣の人とスキンシップがとれて良かった。
- ・児童の問題行動の対処の仕方等も再確認できて良かった。
- ・日々の実践に生かせる内容で、良い学習の機会となった。
- ・具体的な話でわかりやすかったし、今のニーズに合っていて参考になった。

部会について

- ・各部会が有意義な部会になった。
- ・子ども達との環境学習を進める上で、役に立つ内容であった。（理科）
- ・消防署で救急処置を習って良かった。（養護）
- ・小学校の先生が入ってくれないので小中連携ができにくい。（英語）
- ・そめレオン作りをみんなでき、それをもとに、半日教研の指導案作りもできて良かった。（図工）

来年度に向けて

- ・来年度も、今年度と同じような日程で良いのではないだろうか。
- ・講師・・・和田秀樹さん（学力向上関係の本も出している）
林真理子さん

【半島地区】

講演について

- ・話がわかりやすく良かった。
- ・見方を変えてみることの大切さを教えてもらった。
- ・改めて子どもの接し方、関わり方について学ぶことができ、とても参考になった。
- ・自分たちは、カウンセリングについてさらに学習すること、講演の話をも自分の学校生活を振り返りながら考えることが大切だと思った。
- ・子どもへの対応の仕方などについて、幅の広がりを感じられた内容で、楽しく参加できた。

部会について

移動時間に余裕があって良かった。

来年度に向けて

- ・時期を8月上旬にしたらどうだろうか。
- ・分科会の旅費についての明記をきちんとしてもらいたい。
- ・普段聞くことのできない研究をしている方の話を聞いてとても参考になるし、基調提案も、その時々々の社会情勢などを知ることができるので、今のまま（講演会・部会）でよい。

- ・色々な職種の集まりなので、できるだけ全体で聞ける講演内容を考えてほしい。
- ・講演会なしの分科会のみの一斉教研にしてほしい。

その他

- ・一日教研は、各職場で参加について改めて呼びかけ、特別な場合を除き、「全員参加」で臨むようにしたい。
- ・「教研」の歴史・意義を伝えていく大切さを感じる。

【清水小】

講演について

- ・事例に基づいたわかりやすい内容で、実践に参考になる貴重な話が聞けて良かった。午前中、たっぷり話が聞け、質疑の時間もあり、よい日程であると思う。

各部会について

- ・中学校も1校になったので、各教科部会での小中連携を密にしていける活動内容を工夫していくようにしていきたい。

来年度に向けて

- ・新しい校舎も見たいので、組織教研は中学校で行うようにしてはどうか。

【下ノ加江地区】

部会について

- ・部会によっては小学校中心・中学校中心ということはあるだろうが、小中連携の意義のある部会にしたい。小学校が、あるいは中学校が一人も居ない部会があるということが気に掛かる。
- ・教科を大切に作る部会になって欲しい（人権・情報は別の組織で行えばいいのでは・・・参加者が少ない部会が気にかかる）

全体講演について

- ・この二年間の講演会の内容は良かった。
- ・授業に役立つ色々な情報を得られた。

その他

- ・採用試験二次については仕方がないにしても、年休で不参加の教員が多かったように思う。

組織教研、一日教研、半日教研は悉皆研修です。

（臨時休業：土佐清水市立小学校・中学校の管理運営に関する規則第2条・第2項の規定によるものです。）

2, 部会構成

技能教科については3名以上で成立ということにしてありました。推進委員会の中で、少人数だと運営や活動が限定されるのではないかとということで、来年度は「5名以上で成立」ということになりました。

また、来年度より、教科部会にのみに絞ったらという意見が出ました。その理由として、

- ①中学校が1校になった関係で小中連携の必要性が益々問われている。
- ②教員の人数が減った関係で少人数部会が増え、運営や活動に限界があるのではないか。
- ③学校によっては1つの部会に偏った参加となっている。

等です。各職場にアンケート実施をして意見を吸い上げることになりました。お手数ですが各職場での討議をよろしくお願いいたします。